

普及情報

ひろがる湛水直播栽培（加西普及センター発）

1 ねらいと成果

加西普及センターでは水稻の低コスト、省力化を目的として、水の確保が容易で集団的に取り組める営農組合を対象に水稻湛水直播栽培の普及を図っている。取り組み当初は除草対策や収量面で問題が多かったが、これら問題点を克服するため、定期的な研究会の開催、実証ほの設置を積極的に行った。

その結果、年々、湛水直播に対する意欲が高まり、栽培技術が向上した。特に除草技術が高まり、移植並みの品質、収量を得ることができた。栽培面積も研究会を始めた2002年を境に年々拡大し、2004年には57.9ha（主な播種方法：条播83%、主な品種：「山田錦」48%、「ヒノヒカリ」36%）となった。

2 活動内容

(1) 情報交換の場づくりと課題解決

湛水直播栽培に取り組む営農組合、生産者や関係機関を対象に2002年度から研究会を開催しており、今年で5回を数えた。参加者は年々増え、40～50人も参加があり、「この研究会は毎回勉強になる」「様々な取り組みが分かり、大変参考になる」と大好評である。

研究会で個々の栽培管理状況や問題点等の意見交換を重ね、課題解決を行った結果、効果的な除草方法や安定収量を得るための播種量が分かった。

◎効果的な除草方法

- ①代かき2回処理（1週間空けて）
- ②丁寧な代かき
- ③初期除草剤＋一発除草剤の組み合わせ

④草種に合わせた除草剤の選択

⑤入水のタイミングと十分な水量

◎安定収量を得るための播種量

①「山田錦」で基本は乾籾2kg/10a

②うるち米で基本は乾籾2.3kg/10a

但し、分けつ旺盛時は早めの中干しで、茎数調整

(2) 実証ほ設置による地道な普及

一般的に農家からは湛水直播と言え、昔の散播のイメージが強く、「草が多い」「収量が少ない」と言う声が良く聞かれていた。

そこで、湛水直播栽培に対する意識改革を行うため、まずは見てもらうことを第一歩と考え、各地域で実証ほを設置し、播種実演会や現地研修会を開催した。その結果、年々、意識が高まり、研究会開催と相乗効果となり、水稻の低コスト、省力化には欠かせない技術として普及に至った。

3 普及上の注意事項

2005年には約85haの取り組みが予定されており、加速的に面積が拡大しそうである。その要因は、技術の安定、特に除草技術の向上が大きい。各生産者、各関係機関の取り組みに対する熱意は高まっている。普及センターは各生産者や各関係機関との連携を深め、実証ほ設置、現地指導、研究会でさらに栽培技術を高め、湛水直播栽培の輪を広げていく計画である。

九村俊幸（加西農業改良普及センター）

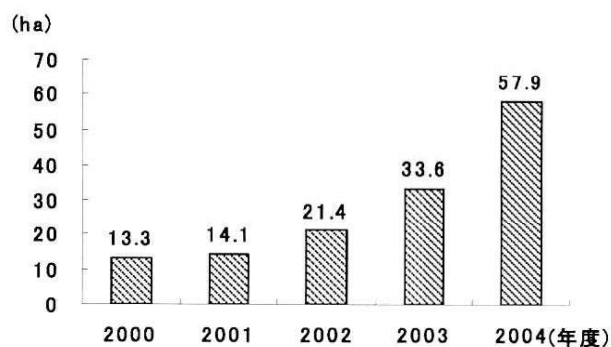


図 管内における水稻湛水直播の面積推移



現地研修会で互いの技術を学ぶ